

## 挑む!

空手家で御坊市職員

前田 勝汰しょうたさん(23)

## 尽きぬ体力・連続技 世界一狙う



和歌山県美浜町出身。フルコンタクト空手の新極真会和歌山支部所属で、段位は2段。和歌山工業高等専門学校を卒業後、御坊市都市建設課職員に。

身長168センチ、体重80キロ。空手選手としては小柄だが、3分間の試合で繰り出す突きと蹴りは約120発。速射砲のラッシュは2分間の延長、再延長でも止まらない。その回転力と無尽蔵のスタミナは「体重無差別の世界大会

を狙える逸材」と評価が高い。5月のウェイト制全日本選手権大会で軽重量級(75〜85キロ)の王者となった。中量級(65〜75キロ)3連覇の兄・優輝さん(25)とともに、来年7月にカザフスタンであるウェイト制世界大会

代表に選ばれた。アウエーの戦いだが、兄弟での世界一をめざす。

空手は5歳から。道場に通いつつ、倉庫を改造した自宅脇の練習場で、父典昭さん(56)から兄と一緒にスパルタ特訓を受け、才能を花開かせた。

和歌山県御坊市職員で、住家被害認定士でもある。5月の大会直前には熊本地震の被災地に1週間派遣されたが、空き時間の自主トレは欠かさなかった。「遠くからわざわざ」と、被災者にねぎらわれることもあった。「自分でも成長を感じられた」

試合中は無表情。痛みに顔色を変えないし、ガッツポーズもない。「相手に読まれないように練習していたら、そうなっていました」と少し笑った。

パンチ力は重量級並み。強すぎて手首や拳を痛めるため、握力強化が課題だ。

文・写真 小滝ちひろ

記者から

ポーカークフェースがうれし涙に変わる瞬間を見たい。めざせ体重無差別の世界一!